

製作遊びで感性の育成促すために

国公幼調査・提言(下)

前年度と本年度の2年間「身近なものとの関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための調査研究―身近なもので作って遊んで―親子で一緒に楽しもう」に取り組んでいる、全国国公立幼稚園・こども園長会(会長 箕輪恵美・東京都中央区立有馬幼稚園園長、国公幼)。事業を進める特別事業委員会は前年度実施した調査の結果を基に、身近なものとの関わりを通して子どもの豊かな感性の育成に向けた提言をまとめた。



親子で段ボールハウスを作って楽しむ様子＝全国キャンペーン・研修会東海北陸ブロック

身近な素材、親しむ工夫を親子で楽しむ機会増やす

調査結果からは「空き箱や空き容器などで遊んで遊んで、身近なものとの関わり、ぶ園での経験が家庭での遊びにつながる」ということ、や、SDGsの考え方に結び付いていることなどが明らかになっている。

提言1「遊びや生活の中で、身近なものとの関わり、いろいろな素材に親しんだり、作って遊んだりすることを経験できるように遊びや環境を工夫しよう」

提言2「幼児期に生活の中にある身近なものを利用して遊ぶ大切さを保護者と共有し、親子で一緒に遊んで遊ぶことを楽しむようにしよう」

提言3「社会実態や環境問題を踏まえ、生活の中にある身近なものを利用して、親子で一緒に遊んで遊ぶことを積極的に楽しめるようにしよう」

具体的取り組みとしては、子どもが自分なりのイ

資源大切にする意識向上

また、さまざまな身近な素材や材料を使い、作って遊ぶ体験や活動について、指導計画に位置付けること、指導や環境づくりについて、指導や実践に生かすことも挙げている。

提言2では「家庭でできる身近なものを利用して作って遊べる活動を保護者に伝え、親子で一緒に触れ合いながら作って遊ぶことを楽しむ機会を増やす」「保護者が親子で作って遊ぶ楽しさや身近な素材に関わり、作って遊ぶ体験が表現の幅を広げたり、表現する意欲や想像力を豊かにしたりということを実感し、日常的に親子で作って遊ぶことを楽しむようにする」とした。

その上で家庭でできる身近なものを使い、作って遊ぶ体験や活動を親子でやる機会をつくること、親子で身近なものを使って作って遊ぶ体験や活動を指導計画に位置付けて親子で作って遊ぶ機会を増やすことが必要だとしている。

提言3では「AIの時代

に伴う親子で触れ合う機会の減少やSDGsなどの環境問題を意識し、親子で生活する中にある身近なものを利用して作って遊ぶことを通して、親子での触れ合いの機会を広げたり、限りの資源を大切にしようとする意識を高めたりできるようにする」「親子で一緒に作って遊ぶことを積極的に楽しめるようにしたり、作って遊ぶ体験や活動の具体例の情報を発信したりする」とした。

その上で、必要なことと、同時に、親子で身近なものを使い、作って遊ぶ体験や活動を積極的に楽しめるように、遊びや活動の具体的な例や方法などの情報を発信することも求めている。